

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2019年2月号>

143号 2019.02.01 配信

春の陽気が待ち遠しいこの時季、学園は受験シーズンです。まだまだ寒い日が続きますので体を温める根菜類をはじめとする冬の野菜など、旬のものを食卓に取り入れて、体調管理に努めてください。

■学園だより

◆東明忌 本学の基礎を築かれた学父人見圓吉先生の命日（1974年2月4日ご逝去）に合わせ、学母緑先生（1961年2月23日ご逝去）と共にご遺影を飾って偲びます。

日 時 2019年2月4日（月）・5日（火） 10:00～16:30

場 所 「先哲の碑」前（悪天候の場合、学園本部館 1階ロビー）

◆B日程試験 2019年2月4日（月）

◆キャリア支援センターから 「2019年度春期 社会人メンター募集のお知らせ」

学生が社会人から、仕事や実社会での経験を伺うことで、将来働く自分の姿を具体的に考える機会を大学が提供する制度です。皆様、ぜひ後輩のためにご応募ください。

（現職者歓迎）

募集期間：2019年3月11日（月）～4月2日（火）

応募要件：原則3年以上の社会人経験のある女性 ※詳細は募集要項をご参照ください。

応募方法：募集期間中、社会人メンターネットワークのホームページ

（<https://mentor.swu.ac.jp/>）にて、募集要項と応募サイトをご案内いたします。

選考方法：書類審査のうえ、面談させていただきます。

※2019年度は、管理栄養士・建築士でご活躍の方が不足しています。

「道の駅」 多様な展開で地方創生

『食』関連コラム NO.6

「道の駅」は、1993年に全国103カ所でスタートし、現在10倍以上に増え、地方在住者にとっては生活に欠かせない公共施設になっています。当初の休憩・情報発信・地域連携機能に加え、地域防災、福祉、観光の推進役としても期待されています。

訪れて楽しいのは、農家直送の新鮮な野菜・果物、水揚げされたばかりの魚介類の購入、地元の食材に拘った加工品やメニューが提供されること。地場製品も匠の技が光り、伝統文化まで体験できます。「道の駅」で新たな発見をしてみませんか。（文責：松本）

■ 広げよう光の葉

小菌江 園香さん

1984年 短期大学部食物学科卒（東京都西北6区支部）

『人との関わりを求めて』

卒業後、勤務した会社を出産で退職し3人の子育てをしてきた。その後なかなか再就職に至らず焦ることもあったが、人との関わりを求めて学校の父母会活動、地域の保育や消費者活動に携わり、その時々で貴重な経験を得てきた。現在は、それらのご縁のおかげで地元の施設に栄養士として勤務している。

ここ8年ほど継続している地域活動は、とてもやりがいがある。一つ目はファミリーサポートで、0～8歳の子どもを持つ親子との関わりだ。相手宅から保育園まで、また保育園から相手宅までの送迎、あるいは我が家で食事も共にお預かりと様々なスタイルがあるが、お子さん達の成長を見守ることも楽しみの一つだ。二つ目は消費者活動。私の居住区も実家も、ワースト1、2を争う地域だ。地区センターと共同で高齢者施設を巡回し、その手口を寸劇などで披露して詐欺被害防止の啓発活動を行っている。いずれも地域のメンバーが地域を支える大切な活動と感じている。

大学との関わりとして、光葉同窓会の支部活動に参加をはじめた。せっかくの機会なので、支部の紹介をさせていただこう。2015年3月1日に発足した同窓会50番目の「東京都西北6区支部」は、約3,300人の会員を有し、新宿・中野・杉並・練馬・豊島・板橋区と広範囲にわたる支部である。年に一度の支部会に向けて活動する10名の役員は仕事に介護、家事や育児と各々の事情を抱えながらも、バイタリティーと責任感、そして遊び心を持った精鋭揃い！まるでミニ同窓会のように和気藹々と会合し、イベントとしてこれまで、『聖夜を彩る素敵なテーブルナプキンの折り方とセッティング講座』、『能に親しむ：講義・謡曲「鞍馬天狗」など』、『認知症予防にもつながる油の摂取と健康』を企画してきた。支部会開催に向けた準備には大変な面もちろんある、しかしそれを超える楽しさと、同窓生同士の関わりと絆が、次への原動力になっていると感じる。来月3月には5回目の支部会を開催する。イベントタイトルは『俳優を志して』、今回の講師は当支部会員である。同じ昭和の園で学んだ同窓生の地域年代の垣根を超えた和やかな出会いと喜びの笑顔が、活動の最高のご褒美なのだ。是非たくさん卒業生に参加してもらいたいと思う。

これらの活動が私の元気の源なのだ。これからも人との関わりを求めていきたい。

【End】